

# 収入保険加入者の声「加入了、収入保険」

2019年1月から収入保険の保険期間が開始しました。すでに加入されている6人の方に、加入のきっかけや収入保険の魅力について教えていただきました。ぜひお読みいただき、加入をご検討ください！

## 「不安材料をカバーしてくれる」



砥部町  
大内 建作さん(56歳)

温州ミカンの単価の低下や、かような病によりキウイフルーツの収入がピーク時の3割程度まで落ち込むなど、さまざまな収入減少を経験した。昨年の豪雨のような自然災害や、自身の健康が今後の経営の不安材料。それらをかバーしてくれる収入保険に魅力を感じた。努力をしても、うまくいかない時がある。そんな時にこそ制度を活用したい。収入が多い農家が加入するものだと考えもあるが、少ない人ほど加入するべき。

【栽培品目】  
温州ミカン・イヨカン等かんきつ類  
キウイフルーツなど

## 「甚大な損害に備えて」



西条市  
真木 和親さん(64歳)

近年は異常気象が多発している。特に、期間が限定される七草の播種時期にはいつも苦慮している。通常は10月上旬頃だが、時季を逃せば、甚大な損害を被る。絹かわなすも、温度管理には繊細な注意が必要であり、灌水時期などを誤れば、不作に終わり、まさに死活問題となる。

農業は日々気象状況に目を配り、細心の注意を払わなければならない。収入保険は、さまざまな収入減少に対応してくれる。我々農家にとって「救いの神」だと思いい、加入した。

【栽培品目】  
水稲・絹かわなす・ハウススイカ  
春の七草・キウイフルーツ

## 「新しいことに挑戦」



宇和島市  
児玉 恵さん(53歳)

35年前に父親から引き継ぎ、就農した。3年前から部長を務める地域のふれあい市へ出荷している。共済職員の推進で収入保険を知った。当初は、従来の共済制度に満足していたが、地元で青色申告者が少なく、自分が1番最初に新しい事に挑戦しようと思いい、加入した。水稲共済の一筆方式の方が、ほ場単位での部分的な被害の場合に有利だと考えるが、収入保険は水稲だけでなく野菜も対象になり、大きな枠組みで補償してくれる点に興味を持った。

【栽培品目】  
水稲・カボチャ・タマネギ・キュウリ  
トマトなどの野菜

東温市  
恒岡 茂文さん(75歳)



## 「最高の保険」

長年、かんきつを栽培してきたが、昨年は豪雨災害によって甚大な被害を受けた。そんな時、共済職員から、熱心に収入保険への加入を勧められた。収入保険は、昨年のような大災害の収入減少はもちろん、価格低下、病気などで作付ができない場合など、さまざまなリスクにも対応できる。そのうえ、全品目が対象となる、と説明を受け、とても心強い保険であると感じた。

また、例年の収入の9割を下回ると補償されるということも魅力。これまでの農業保険とは全く違う最高の保険だと思いい、収入保険に加入を決めた。

【栽培品目】  
温州ミカン・ポンカン・デコポン  
甘平・ブラッドオレンジ

## 「被害に遭う前に」



八幡浜市  
中岡 敬治さん(47歳)

2年前の台風18号で園地に土砂が流入する被害を受けた。また、平成30年7月豪雨など全国で自然災害が頻発している。万が一の時に「後悔先に立たず」とならないよう、収入保険に加入した。

おまけに果樹共済よりも掛金が安く、補償の範囲が広いのも魅力。近年の異常気象は、これまでの営農技術では対応できなくなってきた。これまでにない新しい保険はありがたい。

さまざまな品種のかんきつを栽培しているが、今後は、主力のかんきつに力を入れ、売上を少しずつ伸ばしていきたい。

【栽培品目】  
温州ミカン・清見・不知火・イヨカン  
その他のかんきつ

## 「安心して農業をするために」



今治市  
大澤 譲児さん(68歳)

春から夏にかけて水稲・野菜を、冬はニンジン・ダイコンを、お彼岸や正月前には切り花をハウスと露地で栽培している。

天候不順で作物の出来が悪く、ほとんど収穫できなかった年もある。それを補償してくれるところが、加入した一番の決め手。けがや病気で収入が減った場合の補償も大きいと、去年手の手術をして感じた。それと共済職員の1押しも加入のきっかけのひとつ。

万が一の時は、収入保険が補償してくれるので、安心して農業ができる。今後いろいろな作物に挑戦していきたい。

【栽培品目】  
水稲・ニンジン・ダイコン・切り花など(ハウス・露地)